特定非営利活動法人 Earth Communication

2023 年度　事業計画書

1　事業実施の方針

法人を設立し 5 年目を迎える。また、2022 年度までの取り組みや連携機関との関係づくりが進み、新たな分野の取り組みへの依頼等もいただいている。こういったことを受け、2023 年度より事業名を一部変更、同時に取り組み区分を変更し、心機一転、活動に取り組んでいく。

自然楽校事業では、「ネイチャーズ」、「アース・キッズ」、「オープンプログラム」に取り組む。ネイチャーズでは、これまでの活動から得られた記録を活用し、子どもたちを対象とした半期型の定期プログラム『キッズクラス(海プロ：全 5 回、里プロ：全 5 回)』を計画。通年プログラムへの発展を目指し、実活動を通して参加者の保護者から情報取集も行う。アース・キッズでは、久々生海岸での取り組みに対し、「しずぎんふるさと環境保全基金」さまからの活動助成をいただくことができた。海での活動は継続的に取り組み、久々生海岸の海岸環境や海をはじめとする自然、「自然・環境・社会」のつながりなどについての意識と理解を求めていく。新たな取り組みとしては、海と里山をつなぐ環境学習活動に対し、「TOYO TIRE グループ環境保護基金」さまから、活動助成をいただくことができた。活動が減っていく秋冬シーズンに、竹を活用した環境学習プログラムに取り組むことで、自然の循環に対する意識と理解を育んでいく。オープンプログラムについても、継続的に実施。自然体験活動通して自然を楽しみ、海をはじめとする自然や環境に対する興味や関心を育む。

未来にのこす事業では、自然や環境の保全を目的とした「ハチドリ action.」、自然の中で活動・活躍する指導者の育成に取り組む「インタープリター養成」に取り組む。ハチドリ action.では、久々生海岸で取り組む『里海プロジェクト』、御前崎市内の竹林整備を行う『里山まもり隊』の活動を継続的に実施。里海プロジェクトでは、海岸の保全活動としてビーチクリーンを継続的に実施。また、県や国、県内大学、研究機関の皆さんと連携し、より良い保全活動に取り組むだけでなく、昨年度認証をいただいた「J ブルークレジット」への再申請や、環境省が進める「OECM(保護地域以外で生物多様性保全に資する地域)」登録への申請にも取り組む。また、昨年度明らかになったアマモの食害に対する対応や対策について、南駿河湾漁業協同組合の皆さんに相談をさせていただき、当法人として行える取り組みの仕組み・基盤構築を図る。同時に、久々生海岸の活用されていない陸域(雑草地)を有効活用し、久々生海岸全体を海辺の環境学習フィールドとして活用できるよう、海浜植物・海浜樹木の植樹や海辺の環境学習フィールド活用提案などを行っていく。これまで連携させていただいている関係団体の皆さまとの連携強化も図ると同時に、新たなつながりや関係づくりにも取り組んでいく。インタープリター養成では、文部科学省が取り組む「子供の体験活動推進」を受け、今後、体験の機会が改めて重要視されていくと考えられる。そういったことも受け、6 月に NEAL リーダー養成講座の実施を計画。また、11 月には NEAL インストラクター養成講座の開催も計画中。指導者の育成における体制・基盤づくりにも取り組む。

むすびつながる事業では、「協働 Program」、「EC LABO」に取り組む。協働 Program では、御前崎市教育委員会が主催する『御前崎クエスト』の取り組みが前年度よりも事業拡大し、継続して受託することが決まっている。同時に、御前崎市社会教育課が取り組む『海洋体験活動』についても継続して講師を行う。また、昨年度から始まった御前崎市環境課が進める『環境出前講座』についても、継続して受託し、活動におけるコーディネートや講師を務めさせていただくことが決まっている。新たな取り組みとして、御前崎市企画政策課協働推進室が主催する『御前崎 未来ゼミ』において、取り組みのコーディネートや講師を務めさせていただくことが決定した。この取り組みでは、市内の協働的な取り組みの拡大と底上げを目指した人材育成などに取り組む。加えて、御前崎市商工観光課企業港湾室より、御前崎港開港 50 周年事業として御前崎港を中心とした『海洋環境学習プログラム(御前崎～松崎キャンプ)仮』の活動コーディネート・活動運営の依頼を受け、夏の開催に向け準備を行っている。昨年度は静岡県からの依頼などもあり、行政機関との連携した取り組みが拡大している。EC LABO については、法人会員を中心としたコミュニティ活動に取り組みを変更。指導依頼やボランティア依頼だけでなく、会員限定プログラムを開催するなど、会員を増やすための取り組みを行っていく。

法人全体の取り組みとして、更なる行政機関との連携した取り組みの拡大が予想される。より良い活動や連携協働基盤を構築していけるよう、体制強化を図るだけでなく、より広く多くの方に活動の周知を図り、関わってくださる会員の方々などの増加を目指し、各事業に取り組んでいく。

2　事業の実施に関する事項

(1)　非営利活動に係る事業

事　業　名	事　業　内　容	実施予定日時	実施予定場　所	従事者の予定人　数	受益対象者の範囲及び予定人数	支　出見込額(千円)
自然楽校事業	ネイチャーズ キッズクラス	年 10 回	御前崎市内	3 人	参加希望者 年間合計 50 名	300
	アース・キッズ (環境学習プログラム)	年 8 回	御前崎市内	6 人	参加希望者 年間合計 約 100 名	300
	オープンプログラム シーカヤック体験等	4 月～11 月	御前崎市内	2 人	参加希望者 年間合計 80 名	300
未来にのこす事業	ハチドリ action. 里海プロジェクト	通年 毎月 3～4 回	久々生海岸	3 人	参加希望者 約 300 名	100
	ハチドリ action. 里山まもり隊	通年 10 回	御前崎市内の竹林	3 人	竹林関係者	300
	インタープリター養成	年 2 回	御前崎市内	2 人	参加希望者 約 20 名	500
むすびつながる事業	協働 Program 御前崎クエスト ジュニアプログラム	通年 毎月 1 回	御前崎市内	3 人	市内児童 約 50 人	2,450
	協働 Program 御前崎クエスト ユースプログラム	奇数月 隔月 1 回	御前崎市内	3 人	市内在住者 約 10 人	450
	協働 Program 御前崎クエスト ファミリープログラム	偶数月 隔月 1 回	御前崎市内	3 人	市内在住者 約 8 家族	470
	協働 Program 御前崎クエスト キッズプログラム	年間 4 回 5,8,11,2 月	御前崎市内	2 人	市内在住者 約 20 人	260
	協働 Program 御前崎クエスト グローカルプログラム	通年 毎月 3～4 回	御前崎市内	2 人	市内在住者 約 10 名	540
	協働 Program 御前崎 環境出前講座	各校 1 回 計 3 回	市内小学校 3 校	2 人	対象小学校 在校生	120
	協働 Program 海洋体験活動指導	各校 1 回 計 5 回	御前崎市内の海	2 人	対象小学校 在校生	250
	協働 Program 御前崎 未来ゼミ	年間 5 回	御前崎市内	2 人	参加希望者	150
	EC LABO	毎月 1 回	御前崎市内	2 人	参加希望者	150
	ホームページや SNS の管理運営	随時	法人事務所	2 人	不特定多数	50

＊１　設立（合併）の初年度と翌年度について、それぞれ別葉で作成する。
２　初年度分は、申請予定日からおおむね４か月後以降について作成する。
３　２事業の実施に関する事項については、事業ごとにそれぞれの項目を記載する。
４　２(1)の受益対象者の範囲及び予定人数は、具体的に記載する。
５　２(2)は、その他の事業を行わない場合には記載不要。
６　定款に掲載している事業で、計画書に掲載しないものについては、その理由を記載する。